

【滋賀県福祉人材確保緊急支援事業】

就労支援部会 研修会 報告書

日時:平成 25 年 8 月 26 日(月) 16:30~18:30

会場:サンライフ甲西

テーマ:「働く人づくり」+「支える人づくり」



おおつならではこの就労支援の新事業「スコラ」から学ぶ

講師:OSK 理事 おおつ働き暮らし応援センター所長 白杉滋朗氏



大津市立やまびこ総合支援センター2階
(ひまわりはうすに併設)

「スコラ」では、4年間かけて新しい就労の支援のかたち。特別支援学校卒業生が教養などを身に付けて、興味を持つことを探し、就労に結び付けてもらうのが狙い。

前半2年間は総合支援センター内の自立支援事業所「ひまわりはうす」で週5日のカリキュラムをこなす。10人の外部講師を招くのが特徴で福祉サービスの利用方法や調理実習で生活力を身に付け、サークル活動などで興味を持てることを見つける。

後半2年間は市内の事業所で就労に向けて職業訓練などをしていく予定である。



主催:甲賀地域障がい児・者サービス調整会議 就労支援部会

＊部会長挨拶

- ・「利用者の人づくり」と「職員の人づくり」が大事
- ・本日の白杉氏の話は「作業所、在宅、ひきこもりの人の体験する場所作り」と「新規事業の経過、人、お金、時間、行政との付き合い方」について

＊講師 白杉滋朗氏より講演

- ・OSKとは…おおつ「障害者の生活と労働」協議会の略で天津市の全ての障害者事業所41ヵ所が加入している。他地域では3障害や規模の違いで集まりにくい。しかし、OSKに加入しないと天津市で事業はできないということから全ての事業所が加入。
- ・今年4月に障害者優先調達推進法が施行され、共同受注窓口ができた。今までは市役所での仕事が1つしかなく、1つの作業所にだけ声をかけると他の作業所から苦情がくる等の問題があった。しかし、OSKに入っているとOSKの中で調整できるため、問題になることはなかった。
- ・OSKでは、会員の3分の2以上の賛成が必要。しかし、少数派の意見も切り捨てず、否決の意見も可決されるように考えていこうという方針である。
- ・5年くらい前より問題意識を持っていたことがある。それが、本日の「18の春を豊かなものに…」ということである。
- ・作業所等がどういった役割を果たしているのか、また昔は果たさなければならなかったのか、今果たしているのか、どのようなニーズがあるのか。
- ・1979年、養護学校義務化になり、障害のある人も教育を保障されるようになった。障害のある人は養護学校という流れになったが、その人が本当に養護学校に行きたいのか？特性に合って養護学校に行くのは良いがどうなのか？
- ・それまで学校に行かず、家族や近所の方にしか障害者の方と会う機会がなかったが、義務化になり潜在化していた障害者が顕在化してきた。
- ・1980年代前半には18歳まで養護学校に行くが、18歳以降はどうするのかということが問題になってきた。
- ・作業所という流れになるが、作業所にはお金がないため、なかなか進めることができなかった。そこで、1978年に作業所に補助金がつくようになり、増えた。
- ・作業所が増えたことにより、それまでは動ける人は地域の工場等で働いていたが、養護学校ができることによって「養護学校→作業所」というルートができてしまう。
- ・一般高校ではアルバイトしている生徒も多くいるが、養護学校でアルバイトしている生徒はいないのではないかと？養護学校では困り過ぎているのではないかと？
- ・そういった中で18歳になって社会に出されても社会性は身につかない。一般の高校生はアルバイトをして社会性を身につけている。
- ・卒業後の進路としては、一般の高校生の8割が進学で2割以下しか就職していない。しかし、障害者は2割(滋賀県は22%で大津は12%)が就職で残りは福祉的就労(作業所)

となっている。

- ・養護学校の生徒の多くは真面目。悪いことを知らない。
- ・1年から実習があるが、一般企業ではなく、作業所での実習である。色々な経験が積み重なっている。
- ・作業所は作業所で囲い込む。大事にされる。利用者はお客さんなので、お客さんを手放さない。
- ・本当に作業所に行きたいのか？福祉的就労がライフワークになっているのか？そこ(作業所)しかないから作業所に行っているのではないか？
- ・色々な経験を積んでいたら「もっと〇〇したい！」と言えるのではないか？
- ・もっと経験できる場所を提供してあげたいという思いから大津の自立支援協議会で話が出てきた。
- ・B型事業所だと囲い込んでしまうため、有期限のある事業所(自立訓練+就労移行=4年)だからこそできるのではないか。
- ・大津自立支援協議会ではある制度は使う、ない制度は作る。
- ・全国でも同じような考えを持った方々がいる。養護学校の先生に多かった。養護学校卒業後に専攻科を作るという運動をされていた。しかし、今の制度ではそれを作ることは難しい。私立の学校では8校程あるが、なかなか進まない。そこで、もう1つ考えたのが全国13、4カ所で自立訓練の2年間を使ったカリキュラムを決めて取り組んでいるところがある。
- ・昨年、高等学校進路指導研究会の勉強会にて、和歌山の5つの全ての福祉圏域では自立訓練を使った卒業後の進路があるという話を聞いた。
- ・「おおつならでは」になるには、自立訓練と就労訓練を合体させるということ。就労移行で2年後の就職を探すのが大変だから今までなかったのか？3年間で誰も就職させなかったらペナルティがあると聞いている。しかし、就労移行の平均から見たら1人くらいは就職できるだろう。心配する前にやろう！ということで始めた。
- ・自立訓練+就労訓練をしているところはなかった。そこが「おおつならでは」。10年後にはもっと増えていくであろう。それが、障害者のニーズであろう。もう少し学ぶ場が保障されていくだろう。
- ・もうひとつの「おおつならでは」は、カリキュラムに中身を入れること。支援員には各教科を教えられるスキルや専門性はない。そのため、講師を呼ぶことにした。講師を呼ぶためにはお金がいるため、そこを出してほしいと大津市に提案。市長が市単独で補助金を出してくれることになり、開講式にも参加してスピーチしてくれた。補助金を出してくれたことも「おおつならでは」である。
- ・今年8月30日、様々な問題があるため、そこで市と協議をする。
- ・スコラの問題も入れている。内容をもっと分厚くしてもらいたい。額の問題ではなく今は大津市立のやまびこ支援センター(総合福祉センター)とびわこ学園(機関相談支援事業所)がしている自利訓練事業であるが市直営であるため給付費がなく委託費で運営している。それに対するお金はついたが、2年間の保障しかない。

- ・ 3年目4年目はれもん会社(就労移行)で受けてもらうがそこについてはお金をつけてもらえるかどうかはまだ解決していない。4年間の保障がされているわけではなく、まだ解決できていない。
- ・ 今は大津市の中心部で行っているが、大津市は広く南部や北部にも作りたいと思っている。3カ所作りたいが、お金をどう工面するかは決まっていないため、協議している。
- ・ 他圏域でも作っていき、「滋賀ならでは」の学びの場ができると県も動いてくれるのではないかと。県が応援してくれれば市の負担も半分で済むため市も動いてくれるのではないかと思うので、多圏域でも応援してほしい。

*質疑応答

○三雲養護学校(的場 t)

- ・ 社会性の育成についてのビジョンは？
→ やまびこ支援センターでは今までであった自立訓練だが、中身が伴っていなかったため常に定員割れであった。4月に入ったのが2名。個性があり、どうしていくのかが今の現状。毎回、違うメニューを提供することで、彼らの中に入れていけるように、支援者も彼らのことが理解できるようにしている。現状は社会性を身につけられるカリキュラムにはなっていないので、まだまだこれからである。
- ・ 学校での指導について具体的にどのようにしていけばよいのか？
→ 普通の高校生のような青年期の生活の保障をしてほしい。特別なことはしなくてもよい。また、作業所に入れることだけを目的にしなくてもよいのではないかと。

○カルビー・イートーク(竹下氏)

<実習を受ける側から感じること>

- ・ 実習に来られるが、先生の方が失敗させないようにしているように感じる。
- ・ 実習が中止になってもよいと思うこともある。
- ・ 周りの支援者や家族が体験をさせたいだけで、本人はどう思っているのか疑問に思うことがある。体験だけさせたいという目的がはっきりしているのであればそれはそれでよい。
- ・ 学校では2週間と決まっているかもしれないが、1日や2日だけでもよいと思う。2週間実習をして振り返りをして、もう1度同じ所で実習してもよいと思う。
- ・ 本人が望んで実習にきてもらいたい。
- ・ 失敗してもよい。失敗する前に先生が先に手を出してしまうことが多い気がする。
- ・ 失敗を自分で認められないとダメではないか。失敗する経験も必要だと思う。

○甲南高等養護学校(宇野 t)

- ・ アルバイトを通して社会性を身につけられると思いながら学校の規定という縛りの中でもがいている状態である。
- ・ 企業の言われることはその通りであるが、企業を通して生徒の姿を評価してほしいというニーズがあったり、実習に行くまでの準備性を大事にしがちであると思った。

- ・学校だから失敗できることもある。実践を見直さなければいけないと思った。
- ・失敗を経験できる場の提供を考えていかなければならないと思った。

○さつき作業所(久田氏)

- ・湖南省 5 施設で湖南省作業所部会を立ち上げた。施設外就労を共同受注している。
- ・就労移行支援事業所単独でどうしていけばよいのか？どうあるべきか？
→就労移行は希望者があまりいない。それは、B型とあまり変わらないからではないか。2年後に進路を考えないといけないと思うと、初めからB型にという人(保護者)が多いのではないかと思う。18歳以降の色々な経験ができる学びの場であればいいのではないかと思う。健常者は何も分からずに働いて上司から怒られたり色々な経験をして1人前になっていく。人間関係をスムーズにしていける経験があればいいのではないか。就労意欲の喚起。これが欲しいからお金を稼ぐ等。養護学校卒業後はスコラの自立訓練に行く、その後は地域の就労移行に行く。B型に行くのはその後でもいいのではないかと思う。そうすればもっと豊かなB型になると思う。

○ワークセンター紫香楽(植田氏)

- ・信楽という地の特徴で最初は陶器会社を離職されて利用される方が多かった。ここ1、2年は養護学校を卒業された方が増えてきている。
- ・働いた方を就労させるスキルと養護学校を卒業したばかりの方を就労させるスキルは全然違う。
- ・就労経験のある方はそれなりにお金を使った経験があるので、就労に繋げやすい。
- ・養護学校卒業の方はなぜ就労するのか、本人の中で何もないところから来られているので難しい。
- ・今までは地域のジョブガイダンスに参加して仕事を伝えていたが、養護学校卒業の方が増えてきてジョブガイダンスに行っている意味が分からないということで、今年度からは独自に所内でジョブガイダンスをして取り組んでいる。
- ・スコラでは様々な事業所の集合体の中でカリキュラムの構成をどのようにして決めていくのか？
→様々な事業所の集合体ではなくスコラはびわこ学園。1つの事業所で自立訓練を行っている。カリキュラムは完全に固まっているわけではない。しかし、1、2年目はびわこ学園。3、4年目ははれもん会社なので、その連携については就労支援部会で議論して、情報の共有化をしていく。来年度から別法人で自立訓練と就労移行の両方をしていく法人がある。どのようにしていくのかはその法人に任せていくが、津市内の社会資源であり、4年後の就労の時は働き・暮らしが関わっていくと思うので一貫性がなければ困ると思っている。

○チャンスワークこなん(飯田氏)…事業所としてではなく個人で参加

- ・昨年の3月に開設以来、作業所からの就労したいという相談が1件もない。企業訪問したりと求人を取ろうと動いているので、相談に来てもらいたいと思っている。
→作業所は辞められると給付費が減るので、辞められると困るというのがあるのかも。しかし、それは作業所に押しつける社会が悪いのではないかと思う。大

津では各事業所から最低1名ずつ仕事を体験させる人を出してもらい中学生の体験学習のような形で実習させるプロジェクトを計画している。

○いしべ作業所(森田氏)

- ・作業所を辞めさせたくないとは思っていない。
 - ・ハローワークに登録はしているが、利用者に就労意欲が湧いていない。周りに言われたから就労移行を利用している方も多く、就労したいと思えるように仕向けていかないといけないと思っはいるが難しい。そのため、チャックワークこなんをなかなか利用できていない。
- 一般的にはそういう傾向(作業所が囲い込んでしまう)があるのは現実である。就労支援機関が活躍できる環境にならないといけないと思っている。

○東近江働き・暮らし応援センター(野々村氏)

- ・最近、障害のあるなしに関係なく、働くことに躓いている人が多いように思う。今後、障害のない人も働く意味等が分からない若者のために学びの場が必要になってくるのではないかと思う。
 - ・東近江も同じような現状である。
 - ・H18に東近江に働き・暮らし応援センターができ、作業所からの卒業生を出そうということで会議を開催したが、参加したのは1カ所だけであった。「作業所から就職なんて…」という状況であったが、少しずつ現場の方から働く人を応援したいという声があがってきて、就労部会いちおしネットというものができた。8/22には東近江でいちおしネットフォーラムを開催し、企業、作業所職員から約50名の参加があった。一つのセンターや一法人が何かをするのではなく、地域で就労したい人を応援するにはどうしたらよいかを模索中である。
 - ・東近江圏域でも発達障害の方が学ぶ場がある。そこではホームがセットになっているので、基本的には年金受給が条件になっている。そのため、家庭事情が複雑であったり、お金のない人は利用できない。今回の事業について、18歳～20歳までは年金受給もできないがその辺り(経済的保障)はどのように考えているのか？
- 立派な学校を作ろうと思っているので、利益者負担の原則からいくとそのくらいの授業料を取ってもよいと思っている。しかし、お金がないから学べないということにはしたくないので、今後考えていかないといけないと思っている。

*部会長挨拶

- ・人づくりは小さい頃の積み上げしかない。学校や友達、家族に対する支援も必要になってくる。
- ・18歳からの人づくりとなると、倍以上の時間がかかり大変である。
- ・実践の中で働ける人の人づくりを主幹においている。
- ・事業所が何を担っているかと言えば働くことからドロップアウトした人や就労を希望している人の支援と言えばきれいに聞こえる。しかし、本当に働きたいかどうかを聞き返していくことが必要であるが、聞き返せていないことが多いと思う。スコラはそこを積み上げていく大切な4年間であると思う。

